週報
こひつじ
第39巻　32号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師　米村　英二

# ほんとうの自由とは

## その二　自由であるための内的力

まず時間的自由について考えてみよう。

だれにも拘束されず、自分の好きなことを好きなときにやれる、そんな自由な時間が欲しいと若者は言うだろう。だから親元から離れて、ひとり暮らしをしたいのだと。

しかし時間があれば、人は好きなことが自由にできるだろうか。

夏休みの子どもたちを想像されるとよい。与えられた時間を有効に使っている子どもたちがどれだけいるだろう。たいていは学校生活のリズムを失い、怠惰に流されているのではないか。

退職して突然多くの時間を得た人たちはどうか。

仕事がなくなったとき、その空白の時間を埋めることができなくて、空しさに襲われる人が少なくないのだ。

次に経済的自由はどうか。

もっと経済的にゆとりがあり、自由にお金が使えたら、どんなにいいだろう。われわれはみな、そんな生活にあこがれる。

しかし有り余るほどのお金は、その人を自由にするだろうか。

欲しいものは際限なくやってくる。その欲望をじょうずにあやつれるか。

箴言にこうある。

「蛭にはふたりの娘がいて、『くれろ、くれろ』と言う。飽くことを知らないものが、三つある。いや、四つあって、『もう十分だ』と言わない」（箴言 三〇の一五）

まさに幸福を求める私たちの心も、飽くことを知らない、やっかいなものの一つなのだ。幸福はいくらあっても私たちの心を満足させてはくれない。イエスが言われたように、「この水を飲む者はまた渇く」のである。

このように自由に使える時間や金銭がその人をほんとうの意味で自由にするとはかぎらない。

奴隷解放宣言によって黒人たちは確かに自由を獲得した。

しかしその後、その自由を生かして、新たな人生を建設できた黒人は必ずしも多くはなかった。

主人たちのもとにいたときは、奴隷であっても、日々なすべき労働があり、生産の喜びがあった。食べることにも事欠かなかった。結局、自由を生かせなかった黒人たちは再びもとの地主のもとに戻るよりほかなかったのだという。

それは何を意味するか。

外的自由が、その人を自由にするのではないということだ。

したがって自由とは、単に拘束されないことではない。むしろ与えられた自由をどれだけ建設的に使えるか。その内的力こそは人を自由にするものではないだろうか。

その力を自らのうちに築くには、長い年月がかかる。

牧師になって、私がいちばん苦労したのは、時間の使い方だった。

牧師は会社や工場で働くわけではないので外側からの拘束を受けない。それだけ自由であると言える。しかしその自由をどう使うかは日々問われている。

牧師として人間として、自分に求められていることは何か。それに答えるために何がなされなければならないか。

それらの問いに答えることを怠るなら、時間はどんどん失われてゆくのである。

旅行で留守をするときはいつも隣に住むNさんに教会の見回りと戸締まりをお願いするのだが、二階の廊下の私の書棚に、「時間管

理」というコーナーがあり、何と数十冊の、それに関する本が並んでいるのを見て、Nさんは思ったそうだ。

「米村さんも時間管理には苦労されているんだな」と。

その通りなのだ。　（続）

**********

## 今日の礼拝

**********

○第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時からこひつじ館で。

○説教は米村牧師。

**********

## 先週の礼拝

**********

○司会は岩崎宏志さん、奏楽は屋宜浩子さん。

○説教は林田はるかさん。

「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ」（イザヤ四〇の八）から、草花のように弱い私たちを神がどのようにして強くしてくださるかについて語ってくださいました。

○証は後藤加奈子さん。

加奈子さんは、最近、お母様を天に送られました。お父様は早くに亡くされていたので、お母様が、まだ小学生だった彼女とその弟を苦労して育ててくださいました。

そんなお母様を失う日の来ることは、想像するだけでも彼女にとってはつらいことでしたが、ついにその日が来たのです。耐えられないと思っていたら、神様は、彼女の心に一つの讃美歌を与えて慰めてくださいました。その讃美歌とは聖歌二三二番「つみとがをゆるされ」です。

証の最後に、その歌の折り返しを、英語で、“this is my story, this is my song.”と歌い、以上が私と母を主がどのように顧みて下さったかの物語であり、私の歌です、と語ってくださいました。

**********

## 先週の出席

**********

第一礼拝が三五名、第二が三七名、合計七一名（男二四、女四七）。子ども六名。合わせて七七名でした。

**********

## ユースキャンプ案内

**********

コロナ禍で、長く教会の活動ができないでいましたが、先日は、ＣＳキャンプが教会で行なわれ、大変好評でした。

今度は若い人たちのキャンプが、一〇月八日、九日に阿蘇ＹＭＣＡのキャンプ場で計画されています。最近は、若者たちの礼拝参加が少なくなっています。ぜひ、キャンプで、再会できればと願っています。

**********

## 雑　報

**********

○『こひつじＪｒ』第一七号が発行されました。今回の「あの人インタビュー」は長岡舞子さんです。

**********

## 牧師身辺

**********

二〇年ほど前に英語教師として大津町の中学校で働いていたケン・フラティーニさんが八月一四日に訪ねたいと言ってきました。大津滞在中は、教会の礼拝にもよく来てくださっていましたから、覚えておられる方もあるかもしれません。彼の滞在中、ぼくは彼に日本語を教えていました。そのあと、よくチェスをして遊びました。今度もチェスをしたいと言ってきましたから、もうぼくは白髪頭の老人で、そんな元気はないよと返事をしておきました。

大阪ニューライフ教会の豊田牧師からメールが来て、九月二四日の礼拝で話してくれないかとのことでした。前日の土曜日（二三日）は彦根教会の若者も加わって、ニューライフと合同のセミナーをやるので、そのときは説教について語ってほしいとのことです。お役に立つのであれば、お受けしようと思っています。